

大切な人へ
のこしたいものは、何ですか。

次々と届く、亡き妻からの手紙。それが人々の想いをつなげていく――。

愛を積むひと

佐藤浩市 樋口可南子
北川景子 野村周平 杉咲花
森崎博之 佐戸井けん太 岡田義徳
吉田羊 柄本明

監督：朝原雄三 脚本：朝原雄三 福田卓郎 音楽：岩代太郎 劇中歌：「スマイル」ナット・キング・コール

原作：「石を積むひと」エドワード・ムーニー・Jr. (小学館文庫刊)

製作：アスミック・エース／松竹／WOWOW／KDDI／読売新聞社／北海道テレビ／TBS サービス・制作・配給：アスミック・エース／松竹

制作プロダクション：松竹撮影所 撮影特別協力：北海道 美瑛町 助成：委文化庁文化芸術振興費補助金

ai-tsumu.jp @aitsumu_movie #愛積む ©2015「愛を積むひと」製作委員会

6/20(土)

「日本で最も美しい村」北海道・美瑛を舞台に、夫婦とそこに集う人々を優しく映し出す感動作。

WOWOW FILMS



夫婦愛、親子愛、そして血のつながりを超えた縁—。 北海道の四季とともに描く珠玉の愛の物語。

2004年に出版され、翻訳本としては異例のロングセラーを続けている、エドワード・ムーニー・Jr. 著の「石を積むひと」。夫婦や親子の関係、そして周りにいる人々との交流を静かに愛おしく描いた本書が、舞台をアメリカから日本に移し、新しい物語として映画化されました。主人公の篤史を演じるのは日本を代表する俳優、佐藤浩市。篤史の妻・良子役には7年ぶりの待望の映画出演となる樋口可南子。二人の一人娘・聡子役に北川景子のほか、野村周平、杉咲花、吉田羊、そして柄本明と、ベテランから躍進目覚ましい若手まで、豪華なキャスティングが実現しました。監督は『釣りバカ日誌』シリーズ、『武士の献立』でメガホンをとった、人間ドラマの巧みな演出で定評のある朝原雄三。

撮影は「日本で最も美しい村」連合第1号に認定された北海道美瑛町にオープンセットを建てて1年にわたり敢行、色鮮やかな丘陵や日本百名山のひとつでもある十勝岳など、大自然の四季の移ろいととも、そこに住む人々のドラマを映し出します。また、チャールズ・チャップリン作曲の永遠の名曲「スマイル」が劇中歌として、作品の世界を彩ります。

大切な人を失った時に、人はどのように立ち直り、一歩前に進んでいくのか。妻からの手紙に導かれるように、登場人物それぞれが新たな人生を歩み始める。

丁寧に重ねていく日々に、やがて見えてくる希望——清々しい余韻とあたたかな涙を届ける感動作が誕生しました。



小さくて割れた石とか、
変わった形をした石とか、
そういう石にも、塀を支えるのに
役に立つ場所が必ずある—。
人だって、
きっと同じだと思う。



次々と届く、亡き妻からの手紙。想いは積み重なり、やがて希望となる—。

第二の人生を大自然に包まれた美しい土地で過ごそうと、北海道に移り住むことにした夫婦、篤史と良子は、かつて外国人が住んでいた家で暮らし始める。良子は篤史に家を囲む石堀作りを頼んだが、以前から患っていた心臓の病を悪化させて、この世を去ってしまう。悲しみにくれる篤史のもとに、ある日良子から手紙が届いた。驚く篤史。そして、次々と見つかる手紙に導かれるように、篤史は周囲の人々の人生に関わっていく。また、長年疎遠となっていた娘、聡子と再会し・・・。



エグゼクティブ・プロデューサー：豊島雅郎 秋元一孝 小西真人 エグゼクティブ・スーパーバイザー：深澤 宏 プロデューサー：荒木美也子 小松貴子 伏見朋子
製作総括：前島和子 高橋敏弘 青木竹彦 アソシエイト・プロデューサー：所 亜紀
撮影：上野彰吾 (J.S.C) 美術：須江大輔 照明：土山正人 録音：鈴木 肇 編集：石島一秀 装飾：吉村昌悟 スクリプター：宮下こずえ
映像技術：前川達彦 VFXスーパーバイザー：浅野秀二 (MAGICA) 音楽プロデューサー：小野寺重之 キャスティング：田端利江
衣裳：丸山佳奈 スタ일리スト(樋口可南子)：佐伯敦子 ヘアメイク：小山徳美 吉村英里 ヘアメイク(樋口可南子)：藤垣結土 フードスタイリスト：飯島奈美
助監督：石川勝己 ラインプロデューサー：高橋沢淳 岩田 均
特別協力： JAPAN AIRLINES HONDA MIKIMOTO 映画アート制作センター YKK AP株式会社

6/20(土) 全国ロードショー